



荒尾のまち案内人の会 会長

平木波留美さん

ひらき・はるみ 1958 (昭和 33) 年生まれ。上平山在住。
趣味は旅行すること。次の目標は沖縄旅行。休日は夫婦
でお弁当を持ってドライブをするのが楽しみ

「荒尾って何も無いっていう人が多いんですが、知れば知るほどたくさん魅力があるんです。そのお手伝いを私たちはしています」と微笑む平木波留美さん。荒尾のまち案内する『荒尾のまち案内人の会』の代表を務めています。市内各地のつながりを作り、幅広く荒尾の魅力伝えるため、荒尾のまち案内人の会は、2年間の準備期間を経て平成28年度に発足しました。「広報紙で市民ガイドを募集していて、気楽に応募したのが、2年ほど前です」と振り返る平木さん。大牟田の高校を卒業後、関西でバスガイドとして働いていた経験もあり、「観光資料を覚えて、伝えるだけならば私にもできそう」と考えていましたが、案内人は平木さんの持つガイド像とは全く違うものでした。「大切なのは、参加者と共に五感を使って、感動を共有することです。小代焼の窯元を見学したときには焼き物に触れてもらい、その器でお茶を飲んでもらいましたし、ごみ処理施設を見学したときには、処理後に生成される固形燃料に触れてもらいました。案内人も参加者も、目で見たり、触れたり、味わったりすることで、言葉だけでは伝わらない感動を味わうことができるのです」

案内人は、皆それぞれの個性を生かして活動しています。「方言で伝える人もいますし、寸劇や紙芝居を披露する人もいます。私も、人形や写真を使って伝えていきます。ただ説明をするのではなく、小さなサプライズ、小さなハートフルがプラスされることで大きな感動が生まれるのです」日頃見慣れている荒尾の景色も、角度・季節・時間が違えば別の表情が見えると平木さんは言います。「万田坑と万田山を眺めながら、ウッドチップが敷き詰められた鉄道敷の道を歩くと、正面から見ただけでは気付かない新たな魅力が見えてきます」案内人のモットーは『荒尾のたねを育てよう』。平木さんは荒尾の魅力を開かせるために伝え続けます。



1 ガイドをする平木さん(左端)。毎月第4土曜日に定時ツアーを行っています。詳しくは広報紙 25 ページをご覧ください
2 奈良でバスガイドをしていた頃の平木さん。3 手づくりのマジャッキー人形を使って荒尾の紹介をしています 4 三角西
港のガイドさんとの意見交換会。「あなたに会いに来たと言ってもらえるようなガイドになるため頑張ります」と平木さん